

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ハーモニー 1階	評価実施年月日	平成20年7月
評価実施構成員氏名	齋藤 真 古内 朱美 三橋 理恵子 秋山 恵子 花田 真理 齊藤 佳江 有田 朋美		
記録者氏名	齋藤 真	記録年月日	平成20年7月23日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>前回の外部評価の際に、地域に向けた理念が含まれていないと指摘があり、追加した。また、パンフレットにも掲載。事業所独自のものとなっている。</p>	○	全職員において、地域との関わり合いの重要さがいまち理解できていないようである。今後話し合い理解を深めていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>全職員に共有はされていない。また、実践されている職員とそうでない職員とがいる。理念の内容が分からない職員もいるようである。</p>	○	理念に関しての重要さが希薄であり、話し合いの必要があると思われる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>家族の方に向けては、玄関・フロア内に掲示されている。当ホームパンフレットにも今年度より追加した。</p>	○	地域の方にもむけた理念の説明など行っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>顔を見たらそれぞれが声をかけるようには意識されているが、気軽に立ち寄れるまでにはいたっていない。</p>	○	夏祭りや地域の町内会などを通して、交流の機会を増やしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>毎年行われている夏祭りや、今年度より町内会の廃品回収・祭りの手伝いなどに職員のみ参加し、基盤を作っている段階である。</p>	○	現在は職員のみ参加にとどまっているが、入居者も含めた地域活動の参加を目指していきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>現在町内会を通し、地域の高齢者にむけた施設の説明や認知症についての説明など行おうと検討中である。</p>	○	町内会の方よりグループホームや老人保健施設などそれぞれの施設の違いや説明を詳しく欲しいと要請があり、検討中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員それぞれにおいてその重要性を理解されているとは思えない。また、改善に向けて意識して仕事をし続けてはいないようである。</p>	○	外部評価の時期のみ改善に向けての努力が見られる。定期的に意識付けを行っていく必要がある。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>前年までは遅れがちであったが、平成20年度より2ヶ月に1度の定期開催を行っている。また、ホームの現況報告・地域への関わりの方法・外部評価・自己評価の必要性などを報告している。</p>		前年までにも行われていた新年会・夏祭りの参加に加え、ホーム内見学を兼ねた昼食会、流しソーメンや焼肉といった日常生活の中での参加を要請し、実施している。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市役所介護保険課・生活保護課に定期的に訪問し、情報の共有を図っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>平成19年に内部研修として実施済み。</p>		今後も定期的に実施していきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>平成19年に内部研修として実施済み。また、20年の研修なども随時受講されている。</p>		今後も定期的に実施していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>管理者・計画作成担当者により、入退所時に行われている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対策委員会を設け、またその内容を玄関先に掲示している。関連機関のパンフレットも常時玄関先に置かれ、入居者・家族の目にはいりやすいようにされている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム新聞・各居室担当者からの手紙にて定期的にお知らせする機会を設けている。また、面会時などにも随時報告されている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情対策委員会を設け、またその内容を玄関先に掲示している。関連機関のパンフレットも常時玄関先に置かれ、入居者・家族の目にはいりやすいようにされている。ケアプラン説明時などにも家族からの意見を引き出せるように努力している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関して、職員の意見や提案を聞く機会はほとんどない。また、職員も運営方法など理解不足のようである。	○	全職員にグループホームとは何かを、運営基準・介護保険法を含め勉強する場を設けたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	19年度よりも職員数を増やし、勤務延べ時間の確保を行った。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職や退職以外での職員の移動は現在行われていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>毎年各職員に合わせた研修計画をたて、実行されている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>小樽市グループホーム協議会に参加させていただき、徐々に交流の機会が増えてきている。しかし、相互訪問などの機会は少なく研修の際に交流があるのみである。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>全く行われていない。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>全く行われていない。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談時には、できる限り本人の望む生活ができるように聞き取りされている。また、当ホーム入居に限らず介護サービス全般においての本人に適したサービスを本人や家族の方に助言させていただいている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居相談時には、できる限り本人の望む生活ができるように聞き取りされている。また、当ホーム入居に限らず介護サービス全般においての本人に適したサービスを本人や家族の方に助言させていただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時には、できる限り本人の望む生活ができるように聞き取りされている。また、当ホーム入居に限らず介護サービス全般においての本人に適したサービスを本人や家族の方に助言させていただいている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホーム見学時には家族のみではなく必ず本人に来ていただけるように、お話している。また、自宅で利用していた家具を持ち込んで頂くなど、できる限り自宅に近いかたちにし、ホームになじめるように支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の方の状態によって様々だが、一緒に楽しんだり昔のことを教えていただいたりとお互いに支えあいながらの関係を築けている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生会や新年会・夏祭りの際にはご家族の方に参加を呼びかけ、共に過ごしていただける時間を用意している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会の際には出来る限り入居者の方と家族だけで話せる環境を用意したり、家族だけの外出のお手伝いをするなど支援されている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	普通っていた美容室や市場などに出かけられる機会を設けているが、その数はわずかでありより多くの支援を目指していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな入居者の方には、職員が間に入りコミュニケーションをとれるように極力努力されている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	前例なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中からお本人に聞き出したり、ご家族からの意見によりできる限り希望をとりいれるように支援されている。また、どうしても希望に添えないときはお話しし納得していただいている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常にお話の中からお本人の生活歴を聞きだしているほか、ご家族の面会時に昔の話を聞きだすようにされている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員同士の申し送りやお本人とのお話の中で把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各居室担当者・日勤者・計画作成担当者によってケアカンファレンスを行い、ご家族に説明している。また、説明の際にご家族の希望を聞き取り入れるように作成されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、入退院時など状況の変化に応じてケアプランの見直しを行い、作成されている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に関しては、記入しきれていないこともしばしば見られる。	○	個別記録の書き方について再度話し合う機会が必要。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居相談などの際に本人に適したサービスを検討し、地域包括センターや隣接のデイサービスの利用など広く検討されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の交番に災害時の協力の要請を行っている。また、地元中学生の職場体験学習の受け入れを行い、入居者の方との交流の機会となっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のほかのケアマネジャーやサービス事業者との話し合いは全く行われていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターは入居希望の際に関わるのみである。	○	運営推進会議の参加などお願いしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族などの希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に一回、連携医療機関による往診、また、本人希望の病院などある場合は約1ヶ月に1度の受診を支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	個々に応じて、内科や神経科・精神科など受診されている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣接されているデイサービスに看護職員が勤務しており、必要時は相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向け病院関係者・家族とお話している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族には早い段階からの話し合いを行っている。その後家族を交えかかりつけ医と相談している。職員間での共有はできていない。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期における対応はかかりつけ医とホームで話し合わせ、前例にのっとり支援されている。また、ご家族の方にもホームでできないことは伝えてあり、納得していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住替えによるダメージを防ぐことに努 めている。	前例なし。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取扱いをしていない。	職員個々に気をつけながら対応していると思われるが、まれに言葉かけ・対応におい て出来ないことがある。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている。	できる限り本人の意思を尊重しながら支援されている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそつて 支援している。	職員の仕事しやすさを優先し、前日の夕から翌日の着替えを用意していることが見 受けられる。	○	その日のご本人の気分・体調や気候に合わせた衣服を用意する必要があるため、前日からの準備はしないほうが良いと思われる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができ るように支援し、理容・美容は本人の望む店 に行けるように努めている。	外出可能な方に関しては、行きつけの美容室に通っていただいている。不可能な方 はホームに来ていただける美容室にお願いし、なじまれるようになってきている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片付けをしている。	できる方に関しては、職員と一緒に調理・片づけを行っていただいている。また、台所 に入れない方も食卓テーブルにて行っていただくなど、工夫しながら支援されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師より特定の指示がなければ、本人の嗜好に合わせたものを提供させていただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定期的なトイレ誘導や、ご本人の希望により夜間居室ポータブルトイレにてされている方もおり、支援できていると思われる。また、それぞれの排泄パターンの把握に努めている。		排尿・排便チェック表にて把握されている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現在曜日は決まっているが、当日声をかけご本人の体調も考慮し入浴を行っている。時間帯に関しては、職員の数や受診などが重ならないことから午後からと決められている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならないように配慮しながら、ご本人が休みたいときに休めるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご本人や家族の方から希望を聞きだし、ケアプランにあげることにより支援されている。また、暖かい日などは外気に触れる機会を出来るだけ設けられるように配慮されている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	すべての入居者の方において、職員により管理されている。預かり金とは別に個人で所持している方も数名いるが、自分でお金を使う機会は少ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム前の散歩は日常的に行えるよう配慮しているが、買い物・外食などはその日の希望通りに支援できないことが多く、日をおいて実施されている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	居室担当者により、1～2ヶ月に1度の外食・軽食を行えるように配慮しているが、全員での外出は現在車椅子の方が多く難しい。また、家族から外出のお話があった際は車椅子の方でも一緒に出かけられるよう、送り迎えなども行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関してはご本人・家族の希望をとりいれ、支援されている。手紙に関しては来ることはあるが、こちらから書くことはほとんどない。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族の訪問は頻繁にあるが、友人などの訪問はない。いつでもきていただけるような状態にはされている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	前年の内部研修により理解されていると思われる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関のみ自動ドアのスイッチが見えないところにあるほかは、日中鍵をかけることはない。夜間に関しては防犯の為、施錠されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室・フロア入り口のセンサーによりプライバシーに配慮されている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	扱いが上手くできなくなった物品については、段階を踏みながら無くしており、ひとりひとりの能力を考慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の方個々に応じて対応されている。また、事故・災害時のマニュアルが作成されている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	普通救命講習において全職員受講済みである。また、消防訓練においても随時行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練において行われている。また、地域の協力については、近くの交番に定期的に訪問し災害時の協力をお願いしている。運営推進会議においても、近隣住民の協力を要請している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族の方の面会時・ケアプラン説明時に、ご本人の状態に応じた説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回の申し送りにて、変化や異変が合った際には情報共有に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬については用法・用量・目的をファイルにし、いつでも見られるようにできているが、職員一人ひとりすべての入居者について把握されていないようである。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	医師と相談し下剤処方されているほか、飲食物の工夫もされている。また、チェック表にて把握できるようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々に応じて、口腔ケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分においてチェック表が用意されており、必要な方は把握されている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定時に除菌を行っている。また、感染症対策についてもマニュアルが作成されているほか、食中毒の時期には研修参加も随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後調理器具の除菌を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に花の鉢植えを置いたり、入居者の方や家族の方が休憩できるようにテントを設営している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間においては、季節感をとりいた飾り付けを行っているが、各居室においては特に行ってない。また、光に関してもロールカーテンにて随時調整している。	○	各居室に関しても居室担当者により、飾りつけなど行っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TV前ソファにおいて入居者同士楽しめるようになっている。また、玄関先のテントで皆さんでお話できるようにテーブル・イスなどの設置を行っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際に自宅にて使い慣れた家具の持込をお願いしているほか、足りないものはご本人・ご家族と相談のうえ用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度共に定時にチェック表に記入することにより調整されている。換気についても随時行われている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能の低下により、手すりなどハード面での不足が感じられる。	○	ハード面見直し。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室・トイレは分かりやすいように張り紙を張って混乱防止に努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭には野菜畑、ホーム前にはテント設営・また、向かいのお寺に散歩に行く等、当ホームの特色が生かされている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②利用者の3分の2くらい それぞれの暮らしの意向はできる限りつかんでいるものの、その実現には至っていない。
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	②数日に1回程度ある 日曜日や受診など重ならなければ、場面をつくられている。
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	②利用者の3分の2くらい 全介助の方が多く、自分のペースで生活されているのは自立度の高い方のみである。
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	②利用者の3分の2くらい 意思の疎通が可能な方に関しては、おおむねできている。
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③利用者の3分の1くらい 自立度の高い方に関してはできる限り支援している。また、車椅子の方も日常的にホーム周辺の散歩は行われているが、希望にそった外出には至っていない。
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼすべての利用者 2週間に1度の往診、それぞれかかりつけ医の受診など定期的に行われている。
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼすべての利用者 できる限り安心して暮らせるように支援されている。
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	②家族の3分の2くらい 各職員居室担当者のもと、面会時などにご家族の方とお話しされている。ご家族によってはなかなか面会にこられない方もいる為、3分の2程度。
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに 今年度より、地域運営推進会議のメンバーをホームの食事などにお誘いし、来説の機会を設けている。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>②少しずつ増えている 町内会の廃品回収やお祭りに参加させていただき、地域との顔見知りが増えてきている。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>③職員の3分の1程度</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②利用者の3分の2くらい 職員からの言葉かけや配慮のなさが稀に見られ、その場合にそうではないようである。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>②家族などの3分の2くらい ご家族の方はおおむね満足されていると思われるが、昔なじみの友人や御近所の方など来設の機会がない為3分の2程度。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

前回の外部評価以降、今まであまり力を入れていなかった地域運営推進会議・地域住民との関わりを深めるよう努力されている。また、各管理者同士の情報の共有について、話し合われる機会が多く設けられるようになっている。経営者間に関しても、事務長をお話し合う機会が増えてきており、経営面については前年度・それ以前よりも改善されていると思われる。